

エグゼクティブサマリ

1. プリンター市場動向調査

1.1 2017 年の市場実績

2017 年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで 1 億 558 万台となった(対前年比 104%)。方式別では、ドットインパクトプリンターは前年比マイナス、インクジェットプリンター、電子写真プリンターは前年比プラスとなった。

2017 年のドットインパクトプリンター分野の市場実績は 266 万台となった。(対前年比 86%) 最大市場の中国は前年の税制改革に伴う需要増加の反動があり、対前年比 83%と大幅に下落した。

インクジェットプリンター分野の市場実績は 6,789 万台となった。(対前年比 104%) 先進国地域、新興国地域ともに前年を上回る実績となり、先進国地域は 4,097 万台(同 102%)、新興国地域は 2,693 万台(同 107%)となった。

電子写真プリンター分野の市場実績は 3,504 万台(対前年比 105%)となった。2014 年をピークとしたマイナストrendにあるものの底堅い需要があり、過去 2 年の市場の落ち込みの反動と世界経済の景気回復を受けて、対前年比プラスとなった。

1.2 2020 年までの見通し

2020 年の全世界のドットインパクトプリンター市場は台数ベースで 223 万台と見通した。(2017 -20 年 年平均成長率 -5.7%)

2020 年の全世界のインクジェットプリンター市場は 7,443 万台(年平均成長率 +3.1%)と見通した。SFP (Single Function Printer) の世界市場は 623 万台(同 -5.5%)、一方 MFP (Multi Function Printer) の世界市場は 6,820 万台(同 +4.1%)の規模になると見通した。

2020 年の全世界の電子写真プリンター市場は、3,358 万台(年平均成長率 -1.4%)と見通した。モノクロ/カラー別では、モノクロが 2,457 万台(同 -3.7%)、カラーが 901 万台(同 +6.0%)と見通した。カラー化率は徐々に上昇し 2020 年に 27%になると見通した。

上記の各カテゴリーの合計として、2020 年のプリンター市場は、ワールドワイドトータルで 1 億 1,024 万台(年平均成長率 +1.4%)になると予測した。

2. プリンター技術動向調査

電子写真プリンターの 2017 年の発売機種数（回答機種数）は、プリント・オン・デマンド（以降 POD と略す）用途のプリンター※を含まない数として、SFP（Single Function Printer）が 8 社 42 機種、MFP（Multi Function Printer）が 5 社 36 機種である。一方 POD は 3 社 13 機種（SFP : 7 機種、MFP : 6 機種）である。

※ プリント・オン・デマンド（Print On Demand）用途のプリンターとは、「プロダクション市場向け」「オンデマンド・パブリッシングシステム」「企業内プリンティングから商業印刷まで対応」等を銘打ったプリンターを意味する。

SFP は 2008 年の 69 機種から減少傾向が続き 2012 年以降は 40 機種を下回る発売機種数で横這い傾向であったが、2016 年と 2017 年は連続して 40 機種を上回った。（ただし、2006～2009 年までは POD を含んだ数値であるため、数字の見かけよりは減少幅は小さい。）

MFP は 36 機種（POD 除く）と 2015 年、2016 年と 2 年続いた 100 機種超えから大きく減少した。過去に 2013 年から 2014 年にかけて大幅減少を記録したのと同様に、2 年から 3 年続けて増加した後、反動で大幅減となる傾向が現れた形になっている。MFP は年ごとの増減が大きく、2018 年には発売周期要因で大幅増が見込まれる。

電子写真プリンターでは、2014 年から集計を始めたクラウド印刷対応比率が 2014 年の 45% から 2015 年は 55%、2016 年は 66% と増加してきたが、2017 年は 46% へと減少した。これは発売機種数が大幅に減少した MFP における対応率が半減した（74% から 36%）ことによるもので、全体として新たな業務用途への対応が進んでいる中での一時的な現象と考えられる。

インクジェットプリンターの 2017 年の国内発売機種数は、SFP が 4 社 12 機種、MFP が 4 社 41 機種、LFP（Large Format Printer）が 4 社 19 機種である。

SFP は電子写真プリンターに同じく 2006 年の 32 機種から 2013 年と続いていた減少傾向が 2016 年より横這いから増加傾向へ転じたように見える。MFP は 2010 年をボトムに増加に転じているように見えたが、2014 年に 47 機種と増加した影響か 2015 年、2016 年と減少後、2017 年は急増し 2006 以降 2014 年に次ぐ 41 機種と 2 番目の機種数となっている。

LFP は、2011 年からの 3 年間はおおよそ 20 機種の発売だったが、2014 年 34 機種、2015 年は 39 機種、2016 年は 43 機種と増加傾向であったものの、2017 年は 19 機種と前年の半数以下に減少している。

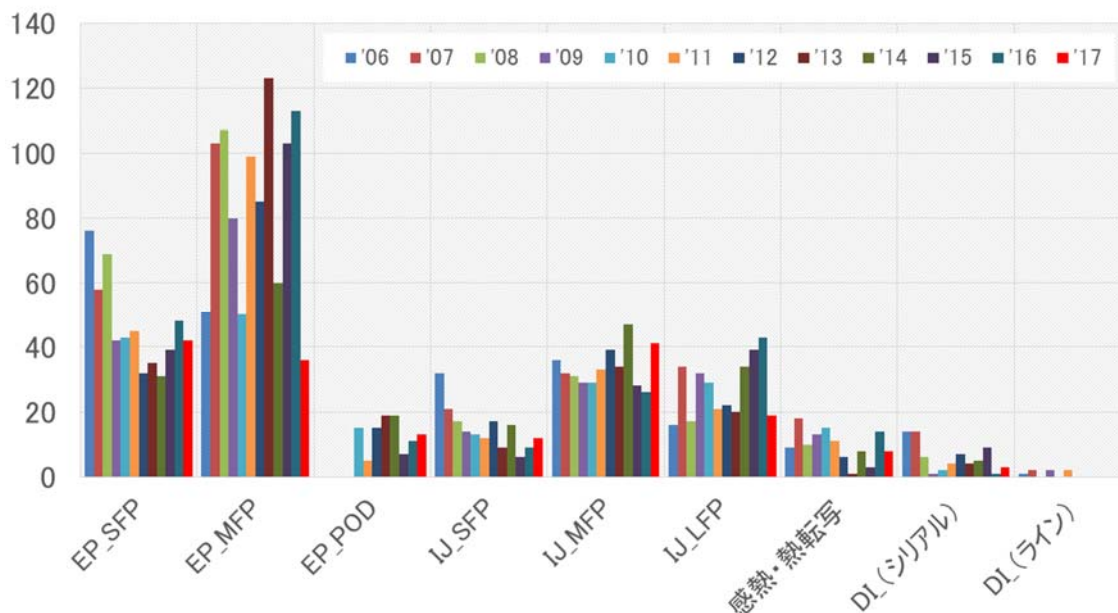
インクジェットプリンターでは、2014 年から集計を始めたプリンターの訴求用途から、これまで主体だった家庭用に加えて事務用の発売が定着しており、事務用、A3 サイズ対応機、両面自動読取機能搭載等、使用用途に応じて特徴を訴求した製品が継続して発売されている。

感熱・熱転写プリンターの国内発売機種数は、3社8機種である。2007年をピークに減少傾向が見られ、2013年には発売機種数が1機種にまで減少していた。その後2014年8機種、2015年3機種、2016年14機種、2017年8機種と毎年増減を繰り返している。これは発売機種数の50%以上を占める業務用ラベルプリンターが2014年4機種、2015年3機種、2016年9機種、2017年1機種の発売があったのに加え、家庭用プリンターの発売タイミングが隔年周期になっているためである。

ドットインパクトプリンターの国内発売機種数はシリアルタイプが1社3機種である。ラインタイプは2012年以降発売がない状況が続いている。全体の発売機種数は少ないものの、複写伝票の作成や埃、塵などの多い作業環境での印刷需要など、古くからの業務形態を継続している市場で一定のポジションを堅持している。

		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
電子写真（EP）		127	161	176	122	108	149	132	177	110	149	172	91
	SFP	76	58	69	42	43	45	32	35	31	39	48	42
	MFP	51	103	107	80	50	99	85	123	60	103	113	36
	POD	PODとしての分類設定無し				15	5	15	19	19	7	11	13
インクジェット（IJ）		84	87	65	75	71	66	78	63	97	73	78	72
	SFP	32	21	17	14	13	12	17	9	16	6	9	12
	MFP	36	32	31	29	29	33	39	34	47	28	26	41
	LFP	16	34	17	32	29	21	22	20	34	39	43	19
感熱・熱転写		9	18	10	13	15	11	6	1	8	3	14	8
ドットインパクト（DI）		15	16	6	3	2	6	7	4	5	9	1	3
	シリアル	14	14	6	1	2	4	7	4	5	9	1	3
	ライン	1	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0

機種数



プリンターの呼称について（解説）

本年度の報告書では、プリンターの呼称について下記のように用語の統一を図った。

プリンターの用語表記については、「JEITA IS-15-情端-7 プリンターカタログ用語集」

(<https://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=873&ca=1>) を参照されたい。

- ・電子写真プリンター

定義：感光体面に静電潜像を発生させ、トナー等により現像後、普通紙等に転写、定着させる方式を用いたプリンター

（注釈1）「ページプリンター」を電子写真プリンターとして使用する場合があったが、「ページプリンター」は「シリアルプリンター」や「ラインプリンター」と並んで印刷動作を示す用語に位置づけられているため、印刷方式としては「電子写真プリンター」の用語を使用することとした。

- ・インクジェットプリンター

定義：インク粒子や小滴を用紙に噴射させて文字や画像等を形成する方式を用いたプリンター

- ・ドットインパクトプリンター

定義：文字や画像を複数の点（ドット）で表現し、それぞれの点に対応する印刷ヘッド内の金属製のワイヤーを、インクリボンの上から媒体に対して打撃することで印字する方式を用いたプリンター

- ・感熱・熱転写プリンター

定義：記録用紙の感熱媒体に熱を与えることにより化学反応を与えて可視像を形成する方式、または記録用紙に接触させたインクリボンあるいはインクシートに熱を与えることによりインクを用紙に転写する方式を用いたプリンター

（注釈2）「プリンター」は、出力機器という意味と、複合機あるいは「MFP (Multi Function Printer)」に対する単機能機の意味で使用される場合がある。本書では、特に断りがない場合は「出力機器」という意味で使用する。特に、単機能機に限定する場合は、「単機能機」あるいは「SFP (Single Function Printer)」と呼称する。